

2. 県立高校学力向上基盤形成事業

実際に授業を行った教師のコメントを見ると、その内容は多様であるが、「生徒たちが熱心に、積極的に取り組んでいた」という点は、多くの先生方の共通した意見であった。高校の授業は概して一斉授業の形式で行われる場合が多いが、生徒たちは他人に説明したり、他人の考えを聞いたりすることを通して自身の理解を深める機会を待望しているのかもしれない。先生方も一度の実践ではあるが、検証授業での生徒の学習の様子から、この新しい学習方法の可能性を実感してくださったようである。

一方で、個々の教材についてはほぼすべての先生が「改善したい点」を指摘している。また、今後「ジグソー法」を用いてやってみたい単元のアイデアを提示してくれた先生方も多かった。来年度、これらの実践の成果を基礎として、継続的に授業を改善するコミュニティを広げていければ幸いである。



写真：埼玉県立浦和高校での授業風景

【国語】わたしが一番きれいだったとき 授業案

学校名： 春日部女子高校 教科名： 国語科
 対象学年 2年生 生徒人数 33名 教材作成者： 寺嶋 毅 先生

0. 授業のねらい

詩に描かれた「時代」、特徴的な「表現」、および「作者」について、三つの角度からアプローチすることで詩のテーマを主体的に読み取り、それを踏まえてこの詩の魅力を効果的に伝えるキャッチコピーを考えさせる。

1. 答えを出してほしい課題

茨木のり子「わたしが一番きれいだったとき」の詩で、作者が言いたかったことはどのようなことか。また、この詩の魅力はどのようなところにあるか。

2. 部品（エキスパート資料の題材）

- A 時代背景
- B 表現内容
- C 作者について

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	導入 「わたしが一番…」の初読の感想を記入。	
40分	展開 ①エキスパート活動…A、B、Cのワークシートと資料をもとに、グループごとに学習。 ②ジグソー活動…グループを入れ替えて課題「この詩を通して作者が言いたかったことはどのようなことですか。」に取り組む。 ③クロストーク…本時に学んだ内容をもとに、グループごとにこの詩の魅力あるいは作者の魅力を現代の女性たちにも効果的に伝えるキャッチコピーを考え、発表する。	①の活動に停滞の見られる班については必要な声かけを行い、②につながるようなアドバイスをする。（ただし、なるべく最小限にとどめる。） ③については、その場で代表者に口頭発表させるか、黒板に書かせるか、特定の班を指名するかは、それぞれの進行状況と残り時間、また教室の雰囲気等を考慮し、柔軟に指示するようにする。
5分	まとめ 学習した内容をもとに、「わたしが一番…」の感想を記入。	

【国語】わたしが一番きれいだったとき 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.15 (月) / 現代文「詩」
授業者 寺嶋 毅 教材作成者 寺嶋 毅

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

時間が経つにつれて雰囲気にも慣れ、話し合いの際にも活発化していったように思われる。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

今回、茨木のり子の評伝に関わる部分（資料 C）、特に中期以降の部分を実質させ、他資料との有機的なつながりをもう少し深める必要があったと感じる。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

エキスパート活動の過程で誤った学びをしてしまって、ジグソーでそれに気付かない場合などがありうるのではないかと（→どのようにアプローチすべきか？）

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

評論文を主体的に読む切り口としてジグソー型の授業が効果的にできないかと考えている。

【国語】三大和歌集の特徴を比べてみよう 授業案

授業案 実施日 平成22年11月17日（水）5，6限

学校名：埼玉県立浦和高等学校

教科名：国語総合

対象学年 1年次生（1年5組） 生徒数41名

教材作成者 板谷大介

0. 授業のねらい

古典和歌への理解を深める。また日本古典文学一般への認識を深める。

1. 答えを出してほしい課題

万葉集、古今和歌集、新古今和歌集のそれぞれの歌をしっかりと理解できた。それぞれの歌集の作風や特長を理解できた。また、和歌を鑑賞することで、私たちにとって日本古典文学とは何か、について考え答えを導くことができた。

2. 部品

万葉集、新古今和歌集、新古今和歌集より任意に選んだ恋の歌各2首、計6首。

3. 学習のデザイン

時間	学習活動	支援等
1分 5分 30分	3人×13で着席（1箇所のみ4人になる） シート①記入 グループA（4グループ）、B（4グループ）、 C（5グループ）ごとにワークシート②の課題 に取り組む（エキスパート活動） ※「座席表」参照 ●まずは各々で課題を考え、その後グループで 話し合っ、グループとしての課題の答えを出 すようにする。	シート①②は事前に机上におく。①は 記入後回収。 座席表も事前に配布
1分	上記A、B、Cの成員一名ずつを集めた3名の グループ「い、ろ、は、…を」にシャッフルす る。（1箇所のみ4人になる） ※「座席表」参照	
30分	シート③-1の活動1～活動2に取り組む。 （ジグソー活動）	シート③-1を配布。 必要に応じ発言を板書。
20分	シート③-1の活動3に取り組む。 （クロストーク）	
5分	シート③-1の活動4すなわち音読を行う。	シート③-2を配布。
10分	シート③-2を記入。	シート④を配布。
5分	シート④を記入。	シート②～④を回収。

【国語】三大和歌集の特徴を比べてみよう 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.17 / 国語総合
授業者 板谷 大介 教材作成者 板谷 大介

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

たとえば教師から「万葉集の作風は～で、古今集は～で…」と教えられ「ふうん、そうか」という目で個々の作品を見るのではなく、生徒自らが真白な状態から和歌をよみ、自分たちで歌風ごとの相違を実感してゆく、ということが非常に好評でした。エキスパートで自分たちが学んだことをジグソーで発表することも勉強になったようでした。「わかる」と「説明できる」ことは違うのだ、と気付いていました。総じてとてもよい反応でした。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

和歌を次のようなイメージでとらえている生徒がいました。

万葉→古今→新古今

未発達 → 発達

たしかに表現技法は工夫されていきますが、私としては、それぞれの歌集にそれぞれ違った魅力がある、と捉えてほしいところでした。これは例えば、「バッハ＝未発達」→「シェーンベルク＝発達」とは捉えられないのと同様です。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリット→1度教材を作ってしまうと、多少アレンジしながら何度でも、誰でも、使える。「学び合う」ことの大切さを生徒が自覚する。

デメリット→知識定着型の授業（トレーニング？）もしなくてはならないので、この方法を度々やる、ということは難しい。（時々やることには大きな意義がある）

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

私の今回作った教材もそうですが、ネット上で色々な方が作った教材を、データベース化して、誰でもなんでも使えるようにしてほしいです。

【国語】漢詩の鑑賞法 授業案

学校名： 越ヶ谷高校 教科名： 国語
 対象学年 1年生 生徒人数 39名 教材作成者： 竹部伸一 先生

0. 授業のねらい

一首の漢詩を題材にして、鑑賞を深める方法を身に付けさせる。

1. 答えを出してほしい課題

「書かれている言葉から、書かれていないことを自分なりに発見すると、文学作品を読むことが楽しくなる。そのためには、書かれた言葉から、作品内の視点を見つけ、そこから見える情景を想像し、さらにその情景を見ている語り手や登場人物の心情を想像すると良い」という、鑑賞を深めるための方略が使えるようになる。

2. 部品（エキスパート資料の題材）

A: 「自分なりの発見」をすることで短歌を読むことが楽しくなったと述べてある文章

B: 情景を理解するには、登場人物や語り手の視点を設定してみるとよいと述べてある文章

C: 心情を理解するには、登場人物や語り手が見ている「見え」を生成してみると良いと述べている文章

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	音読 登鶴鶴楼を音読し、漢文訓読法の基礎を思い出す。	
10分	現代語訳	「グループ（後のジグソー活動を行うグループ）の中で、一句ずつ交代で現代語訳を発表し合いなさい」と指示する。「依」の意味は、どれを使っているのか、考えさせる。教科書の地図で鶴鶴楼の位置を確認させ、海が見えるかどうか考えさせる。
5分	1回目の鑑賞文	
5分	本時の目標の理解 詩歌を鑑賞する方法があることを理解する。理解を深めるために「ジグソー法」が役立つことを理解し、話し合いに積極的に参加する意欲を持つ。	
10分	エキスパート活動 各エキスパートごとのワークシートを読んで、自分でどのように説明するか考える。	「説明できそうですか」「説明できるようにするには、どうすれば良いですか」と声を掛けて、わからない所を話し合ったり、リハーサルを行う必要があることに気付かせる。
10分	ジグソー活動 3つの資料をまとめた、漢詩の鑑賞法を発表できるようにする。	「10分後に三つの資料をまとめた漢詩の鑑賞法を発表してもらいますので、準備しなさい」と指示する。
5分	クロストーク	三グループほど指名した後、「さらに発表したい」というグループに発表させる。
5分	鑑賞についての話し合い	「視点はどこですか。どこから見えていますか。何が見えますか。その情景を眺めていると、どんな気持ちになりますか」と指示する。

【国語】漢詩の鑑賞法 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.19 / 漢詩

授業者 埼玉県立越ヶ谷高 竹部伸一 教材作成者 竹部伸一

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

普段の授業に比べて、意欲的に取り組んでいたと感じました。

個人の作業に真剣に取り組んでいましたし、話し合いも活発でした。

ジグソー型以外で、話し合いをさせると、話し合いが始まらないグループに対して、私が援助をしなければならぬことがあります、その必要を感じませんでした。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

エキスパート活動に使った資料が難し過ぎるのではないかと事前には思っていたのですが、ある程度は、読み取れていたようです。ジグソー活動で説明しなければならないという動機付けがうまく働いていたためだと考えています。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

(メリット)

- ・ グループに貢献しなければならないという意識が動機付けとなる。
- ・ 話し合うことで教材に対する理解が深まる。

(デメリット)

- ・ コミュニケーションを苦手とする生徒にとっては、緊張を強いることになるので、日常的には使えないと考えている。特に、深い理解が必要な部分について、取り上げる方法であると考えている。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

教材をしっかり作れば、大きな失敗無く、協調を起こせる、よくできた方法だと思いました。

【国語】歌物語を作ってみよう 授業案

学校名： 埼玉県立 吉川高等学校 教科名： 国語

対象学年 第1学年 生徒人数 34人 教材作成者： 藤井 嘉子

0. 授業のねらい

歌物語を作成することで、短歌の解釈をより豊かなものにし、解釈することの楽しさを実感させる。

1. 答えを出してほしい課題

歌物語を作成するためには、和歌の解釈が不可欠であることを知る。

解釈をすることは、「好き勝手な読み」につながるのではなく、短歌の表現に対して敏感になることなのだとということを知る。

解釈をすることで、短歌がより味わい深いものになるということを実感する。

2. 部品（エキスパート資料の題材） 別紙参照

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
10:05	本時の活動内容を知る。	本時が「歌物語を作成する」授業であり、エキスパート活動について説明する。
10:15	一つの短歌についてその短歌の印象と、イメージを考える。	あえてこちらからは何もアドバイスしない。途中で書けなくなった者がいたとしても中断する。
10:20	【エキスパート活動】 A・B・C 3人班を作り、それぞれの資料に基づいてグループで学習し、ジグソーの際に説明できるように考える。	それぞれ資料について理解を深め、次のジグソー活動では自分が説明しなければならないことを意識させる。 時間が余った班については、ジグソー活動で発表する練習をさせる。
10:45	【ジグソー活動】 お互いが学んだことを発表しあい、実際に歌物語をグループで協力して作成する。	3人がそれぞれのグループに分かれ、お互いに学びあったことを生かしながら、じっくり考えて最高の作品を作るように指示する。
10:55 ～ 11:05	休み時間	
11:05	続きで作品を仕上げる	続きで作品を作成することを指示する。その際、グループで工夫した点、苦労した点なども線を引いてメモをしておく。
11:20	【クロストーク】 元のエキスパートの班に戻り、それぞれがジグソー活動で作成した作品を紹介しあい、感想を書く。	最初のエキスパート班に戻り、それぞれがジグソー班で作ってきた作品を読み比べ、どれくらい違いが生じたかを実感する。
11:40	この授業の感想を書く。 最後に最初と同じ課題に取り組み、最初との違いを感じる。	この形式の授業の感想と最初と最後で同じ短歌を読んだ時、この活動でいかに読みが深まったかを実感させる。

【国語】歌物語を作ってみよう 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.22 / 1 学年 国語総合

授業者 藤井 嘉子 教材作成者 藤井 嘉子

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

はじめは戸惑っていたようですが、すぐに活発にグループで話し合いをはじめました。
アンケートを見ても「たのしかった」という意見が多数でした。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

本校の生徒の中には、自主的に書いてあることを読もうとしない生徒も多いので、書いてあるにも関わらず「何やるの？」と質問されることが多かったです。字数を減らしたり、少し説明したりする時間も設けた方がよいのかな？と思いました。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

グループの編成の仕方によっては、全く話し合いの起こらないグループができてしまうので、どう支援したらよいのか戸惑いました。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

近・現代詩、小説、小論文等

【国語】ジェンダーとは何か 授業案

学校名： 戸田翔陽高校 教科名： 国語
 対象学年 2年生 生徒人数 9名 教材作成者： 飯島健

0. 授業のねらい

国語表現における「意見文」の単元において、「ジェンダー」という言葉の理解をするための資料をベースに、他の3種類の資料それぞれからわかったこと気づいたことを相互に出し合い、話し合いを通じて「刷り込み」「呪縛」「こだわり」について理解を深化させ、望ましい「在り方・生き方」について考えさせる。

1. 答えを出してほしい課題

ジェンダーとは何か。

ジェンダーに関する理想と現実を踏まえた上で、自分は「どうありたいか」。

2. 部品（エキスパート資料の題材）

<資料A> 「拒食・過食 男たちがヤバイ」（AERA 2000. 5. 1）

<資料B> 「週刊文春」「女性自身」新聞広告見出し 2010. 6. 10 東京新聞

<資料C> 「恋愛しない女たち」（AERA 1999. 12. 6）

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
45分 2コマ	前時の復習後、共通資料をもとに「ジェンダーについて」グループによる事前学習。	言葉の意味を理解した上で、実例を募り、実体験に基づいた理解を促す
10分 20分 5分 15分	①前時の復習・グループ分け確認 ②エキスパート活動 1) 個人研究 5分 2) グループ研究 15分 ③班の組み替え ④ジグソー活動 個人説明 5分(×3)	資料の内容を伝えられるように声かけを行う
15分 15分	⑤クロストーク活動 ⑥板書・発表	制限時間を意識させ、話し合いの内容を効率よくまとめるよう促す
15分 40分	①この学習の振り返り（アンケート形式） ②「意見文を書く」 800字 課題「『ジェンダー』という考え方が流行っているが、その考えがいたずらに男女の望ましい在り方を混乱させている」という意見に対して、あなたの意見を述べなさい。 ③次回の予告等	前時の学習シートの返却をし、3種の資料を全員に配布して、学習内容を確認させる。

【国語】ジェンダーとは何か 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 11月26日(金) 10:35~12:10 / 国語(国語表現I)「意見文」
授業者 飯島 健 教材作成者 飯島 健

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

資料それぞれの単独の理解はそれなりにできたと思われませんが、3つの資料を関連付けて考えるということ、それぞれの意見を出し合い、話し合いによって深めるということについては、もう一つという感じでした。意見交換という形が、慣れていないこともあり、活発になされませんでした。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

共通資料を用いたことによって、基本的な知識を共有できました。プリントを埋めるという意識が強すぎるため、話し合うということがおろそかになってしまった。細かい問いの答えを探して書くという作業に集中し、意見交換に至らなかった。問いの内容や組み立てを工夫し、埋めるより話すという意図を明確にした方がよかった。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

コミュニケーション能力の向上、人の意見を聞いて理解を深めるという点では、効果が期待できる。その一方で、グループ学習を嫌悪する者は、欠席、履修放棄という手段を使っても参加しないという実情がある。嫌悪感を取り除く、助走が必要と思われる。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

臨機応変に考えていきたい。

現代文なら「こころ」、古文なら「神無月のころ」(徒然草)

漢文なら 性善説・性悪説

【国語】『高瀬舟』－喜助の行為をどう意味づけるか－ 授業案

学校名： 富士見高校 教科名： 国語
 対象学年 2年生 生徒人数 30 教材作成者： 畑文子 先生

0. 授業のねらい

小説『高瀬舟』の登場人物（喜助）の人となりや行動を読解した上で、彼のとった行為を意味づけ、評価することができるようになること。

1. 答えを出してほしい課題

『高瀬舟』において、お奉行様は喜助にどのような裁きを下したか。

2. 部品（エキスパート資料の題材）

- A：貧困と自殺
- B：安楽死
- C：親族殺人／自殺幫助

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
	<p>課題説明 「お奉行様」のセリフを作り、演じること》が本日の最終目標であることを提示</p> <p>エキスパート ・「弟殺しの罪」について、経済・倫理・法律のそれぞれの立場から糾弾・擁護の根拠になるものを探していく作業。 ・「お奉行様」のセリフをエキスパートグループで作成する。</p> <p>ジグソー ・エキスパート活動の相互解説。 ・エキスパートグループ・セリフシートで作成した「お奉行様」のセリフを持ち寄り、その根拠や狙いを互いに提示しながら、ジグソーグループとして、最も正しいと思われる「お奉行様の判断」をセリフ化する。</p> <p>クロストーク ・「お奉行様」のセリフをグループ毎に考え、発表する。 ・全員がセリフを聞きながら、「ふに落ち度」カードで評価する。</p>	<p>エキスパートは1、2の2種類用意しておく。1を先行し、セリフ作成がある程度進んでいるグループには、2の課題も渡して考えさせる。</p> <p>ジグソー・グループでは、各自がエキスパート活動で作った「セリフ」を持ち寄り（セリフシート①）、他のジグソーメンバーと協議した上で、最終的な「セリフ」を決めて演じることを予告する。</p>

【国語】『高瀬舟』－喜助の行為をどう意味づけるか－ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.29 / 国語総合
授業者 畑 文子 教材作成者 畑 文子

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

1. 授業前

6月に実験授業（「わかるということ」富士見高校バージョン）をやっていたので、ある程度、流れが見えている分、不安は少なかったと思います。

『高瀬舟』を題材に、公開授業をやるから…ということについて生徒に連絡したときも、後ろ向きの反応はありませんでした。（とくに喜んではいませんでした感じはありませんでしたが…）

2. エキスパート

授業開始時の緊張度はそれなりでしたが、エキスパートが始まったとたんに、課題の内容が思いの外難しく、空気が凍った感じがしました。

Aグループは活字が多く、全文を読むのも大変だった上に、「派遣」に関する基礎知識もなかったために、手こずっているようでした。原告が1、被告が2（派遣を依頼した会社と派遣会社）という構造を理解するまでに時間がかかりましたが、話し合いはなんとか成り立ったようです。生徒達の動向としては、派遣会社よりもむしろ実労働を強いていた会社自体に強い憤りを感じていたようでした。Aについては、第二課題（自殺の原因グラフ）を用意していましたが、時間の関係で実施しませんでした。また、現在、第一課題の裁判がどうなっているのかという資料も用意してありましたが、配りそびれました。

Bグループは材料がマンガだったのでとりかかりはスムーズでしたが、「安楽死」というテーマは重く、いざ議論になると、自分の意見を主張すること自体に拒否感を覚える生徒もいたようでした。ブラックジャック派か、ドクターキリコ派のどちらかに立つよう誘導したところで改めて話し合いをさせましたが、各々の主張の収束傾向はなく、ジグソーで、グループの意見と自分の意見を分けて発表していた生徒が多かったのがこのグループの特徴でした。このグループも第二課題を用意していましたが、時間の関係で実施を指示しませんでした。

Cグループは、うばすて山の物語自体に没入してしまい（うるうるしてしまった…という感想を書いた女子もいました）、議論課題の親族殺人事件との乖離を強く感じていたようでした。うばすて山で課題を作るか、実際あった親族殺人事件を始めから考えさせるか、どちらかに絞ったほうが良かったと感じました。どちらにしてもひっかかってほしかった、「親族（尊属）」というワードはスルーしてしまって、議論自体も深まりそうもなかったグループについては、第二課題「自殺幫助」の開始を指示しました。

3. ジグソー

休憩と班替えで多少なりとも元気が出たのか、Aグループの子が元気に口火を切れた班は、積極的なアクティビティーが展開し始めましたが、Aの子が???で、BCに上手く説明できない班もありました。しかし、どの班も、前時に比べると、自分なりの意見も含め、積極的であったように思います。

それぞれが難しい課題に取り組んできたぞ！という自負と、自分が発表しなくてはという責任感が芽生えたからでしょうか。

読解の内容的な評価は決して高くはありませんが、作品上に描かれているリアルを、自らの現実界に招き入れ、そのリアルに於いて自分の判断を下していこうという意欲が感じられたのは、特に最後のクロストークで、予想外に殆どの班が男子が代表者となって、お代官様を「演じ」たことに対して驚きと感動を覚えました。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

今回の教材は、一言で言及すれば「チャレンジ」

まず、チャレンジその1として、エキスパート×2→ジグソー→クロストークの展開を企画したこと（現実的には、エキスパート×1の班も多くなってしまいましたが）。

その2は、組合せの偶然性（恣意的でない班づくり）を堅持し、そこから生まれる面白さに期待したこと。

その3は、クロストークの演劇的アレンジ。「演じる」という前提はペルソナとなり、生徒たちの恥や銜いを払拭するいい契機になりました。

具体的に振り返ると、3～4人グループの分散方法については、事前に連絡しておいたこととして、2時間続きのジグソー型・間の休み時間に自分の椅子を持って次のグループに移動する。グループは、エキスパート活動→ジグソー活動のそれぞれのグループ番号とメンバーを各自理解しておくという点。および、直前準備として、昼休みに机3つをひとかたまりにして9グループ配置・椅子は各自持って移動。…この点については、前回6月の色分けシールによる移動指示よりも、よりスムーズにいったと思います。大きめの番号柱を各テーブルに用意したのもよかった。

ただし、振り返りミーティングで指摘をうけたとおり、どうせ4人グループになるなら、同じAでも別の班に所属していた生徒2人にすべきだったと思いました。

とにかく、教材について、与えられたテーマをじっくりと深めるだけの力がないのではとってしまうと、どうしてもドリル的に数を作業的にこなすことでとりつくろうとする傾向が、指導者側に生じますが、実際の所は、生徒に欠けているのは「力」ではなく、「経験」であり、もっと指導者が腹を据えて、生徒たちを、たくさんではなくじっくり「生徒を信じよう」…という信念をぶれなく持つことで、より効果的なエキスパート&ジグソーが作れるのではないのかと再認識しました。

「あたま」でわかることと「こころ」でわかることは異なる。「あたま」でわかる経験に不足する生徒たちだからこそ、「こころ」で理解する経験を積み重ねることで、「わかる」という自己の能力や将来に自信を持ち、次への学習意欲、モチベーションにつながっていくのではないでしょう

か。

- ③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリットは上記の通り。

おそらく、デメリットとして予測される教材準備についても、教材発掘のパラダイム変換を実行すれば、さほどの負担にはならないと思います。

ただ、現実的なデメリットとしてまず考えられるのは、まず評価の問題。これは、この手法による授業の評価法が未知のものであるという難しさに加えて、学校（または学年）全体で手法統一を謀らなければ、生徒たちも、指導者側も、混乱することが予測される。学校現場に於いて組織的に実践するためには、まずこの手法が、広く認知され、教材によって横並びで全クラスを通して同手法で授業を行えるような環境が必要とされる。

- ④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

●こころ（夏目漱石）

…先生・K・お嬢さんのそれぞれの読み取りをエキスパート活動とし、三者がいくつかの局面に於いて、どのような発想でどう動くかを検証していくジグソー。最終的にはそれぞれのグループをつなぎ合わせて作品を仕上げていくクロストーク。

●宮澤賢治と糸杉

…賢治の作品の中に頻出するサイプレス（糸杉）の謎を、3種の観点からアプローチし、作品として具象化するまでのプロセスを再現する。

●和歌の体系化

…例えば三大集全全ての和歌を、ある一定のテーマで検証していく。大規模校向き。

●残酷な文学

…例えば、ヨーロッパの童話・ギリシア神話・日本昔話をエキスパートで検証し、人間が作り出した「ものがたり」の残虐性についての共通点・相違点をジグソーで検証する。

●とりかえばやものがたり

●平家物語の朗詠

などなど、アイデアは尽きません。

【国語】漢詩の創作 授業案

学校名： 秩父高校 授業者： 小池 章 先生

教材作製者： 小池 章 先生

授業日時	2010年12月20日	教科名	国語
学年	高校2年	生徒数	36名
単元名	漢詩の創作	本時／全時数	2・3／4

この授業のねらい
漢詩（七言絶句）創作を学習することにより、創作する立場からの漢詩の理解・鑑賞ができるようにする。創作過程における、自分たちの意見を述べたり、他人の意見を聞いたりしながら、推敲を加えて、一つのものを作っていくということをできるようにする。さらに、漢詩における、2字の熟語、3字の熟語が持つ、意味内容の広がりやイメージの広がりを理解できるようにし、併せて、熟語の構造についても興味関心を持てるようにする。
授業の中で答えを出してほしい課題
漢詩の構造や作成の手順を踏まえ、グループで「晩秋即事」を題とする漢詩を作成する。
各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）
A：詩語表の見方・平仄について・平仄に基づく漢詩の構造 B：漢詩作成上の注意点 C：漢詩作成の手順

エキスパート活動 グループ編成
3人グループ×(A, B, C)×4
ジグソー活動 グループ編成
3人グループ×12

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
前時	<ul style="list-style-type: none"> ・協調学習の意義・目的・方法等の説明 ・漢詩を創作する意義・目的・今後の学習に反映できる点等の説明 ・教師自作の漢詩（七言絶句）を提示し、どのように創作したかを簡単に説明する。 ・グループ分けについての説明 	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート学習（漢詩の作成についての学習） 各エキスパートグループがワークノートを用いて漢詩の作成について学習する。	ワークノートの課題については、エキスパートグループで取り組めなくてもよい。
40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー学習（結句の作成） ジグソーグループに組み替えて、それぞれ学習してきたものを説明し、漢詩を創作する仕方を学ぶ。 「晩秋即事（事に触れて、その場のことを題材として詩を作ること）」という題で、以上の事に基づいて、各ジグソーグループで七言絶句の「結句」を作成してみる。	8分程度したら、結句を作る活動に移るように促す。
7分	<ul style="list-style-type: none"> ・クロストーク それぞれのジグソーグループで作成した「結句」を発表し、話し合いにより、その中で一番よいものを選択する。	当日はどのジグソーグループも協力しながらうまく「結句」の作成ができていたので、以降はグループを組み替えず、各ジグソーグループで自分たちの結句に基づいて最後まで漢詩を創作した。
43分	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート活動（漢詩の作成） 前時で決定した「結句」に基づき、再びエキスパートグループに戻り、「転句」から作成し始め、順次、「起句」・「承句」と作成していく。その際、必ず読みと書き下し文と口語訳とを確定しておく。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー活動（漢詩の推敲） ジグソーグループに組み替え、各エキスパートグループで完成した漢詩を説明し合い、比較しながら、お互いに推敲を行う。その後、エキスパートグループに戻り、各ジグソーグループで推敲してきた3つの漢詩の中から一番よいものを確定する。	
次時	<ul style="list-style-type: none"> ・大クロストーク 創作された漢詩を各グループで黒板に書き、音読して発表する。授業者がそれぞれの漢詩について講評を行う。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学習についての感想を書いてもらう 	

【国語】漢詩の創作 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.12.20 / 国語 漢詩
授業者 小池 章 教材作成者 小池 章

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

予想以上と言うか、予想をはるかに上回る盛り上がりであったと思います。難しい課題に本当によく取り組んでくれたと思います。若い人の能力とは計りしれませんね。

まさしく「後生可畏」(『論語』)です。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

漢詩作成の規則がきちんとあるので、それに則ってやってもらえたので、最終的にはどのグループにも漢詩らしきものができたと思います。ただ、その規則をもっとスッキリとした形で教える方法や、熟語を並べた後の訓読の仕方をもっと教えなければならないと思います。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

他の人と話し合いながら、一つのものを作ったり、まとめたりするには最適な方法であると思いますが、生徒のアンケートにもあるように、「全くやりたくない」に○をつけたものは、話し合いが苦手な者でした。この点をどうすればよいのか考えなくてはならないと思います。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい单元などあればお書き下さい。

動詞の活用、返り点の読み方等はやってみたいと思います。特に漢文は規則性が高いので、やり方次第によっては、漢文が一番良いのかもしれない。

【数学】解と係数の関係－式とグラフの関連－ 授業案

埼玉県立越谷北高等学校 癸生川大

目標 2次方程式の解の符号について、「解と係数の関係」を用いた解法と「グラフと x 軸と共有点の位置」を利用した解法を比べ、2つの解法の関連を考察することから「解と係数の関係」の理解を深める

〈前時〉 次の例題を解と係数の関係を用いた解法を学習（数学Ⅱの教科書）

例題 2次方程式 $x^2+kx+k+3=0$ が異なる2つの正の解をもつような定数 k の値の範囲を求めよ.

(i)判別式 $D>0$ (ii) $\alpha + \beta > 0$ (iii) $\alpha \beta > 0$ の3つをすべて満たす条件から求める.

問 34 2次方程式 $x^2-2kx+k+6=0$ が次の条件を満たすような定数 k の値の範囲を求めよ.

(2) 異なる2つの負の解をもつ

例題と同様にして、各自解く

グラフと x 軸と共有点の位置を利用した問 34 の別解をプリントで配る.

次時の予習として、ウォームアップを行ってくる.

〈本時〉

① 予習のウォームアップの確認

・問 34 の 解と係数の関係を用いた解答 と グラフを利用した解答 の2つを与える

(i)判別式 $D>0$
(ii) $\alpha + \beta > 0$
(iii) $\alpha \beta > 0$

(iv) グラフの頂点の y 座標 < 0 である
(v) グラフの軸が $x > 0$ の部分にある
(vi) グラフの y 切片が、 $y > 0$ の部分にある

・2つの解答を見ると、(i)と(iv) (ii)と(v) (iii)と(vi) の条件が関連する.

・与えられた2次方程式が異なっても、このことは言えるかを考察して、関連する理由について考える.

③ エキスパート活動

- ・A 判別式とグラフの y 座標との関係について
- ・B 解の和 $\alpha + \beta$ とグラフの軸との関係について
- ・C 解の積 $\alpha \beta$ とグラフの y 切片との関係について

A, B, C の資料を説明できるように話し合う

④ ジグソー活動

・それぞれ A, B, C の内容を説明させ、再度、3つの関連することについてその理由を3人で話し合う。(時間があれば発表)

⑤ 自己評価

・「最後に」のプリントを記入

【数学】解と係数の関係—式とグラフの関連— 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.10.9 / 数学 解と係数の関係
授業者 癸生川 大 教材作成者 癸生川 大

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

生徒の感想を見ると、「楽しかった」「話し合いで理解が深まった」「説明が難しかった」というものがほとんどであった。積極的に説明して分かってもらおうとする意欲的な活動が多くの生徒に見られ、それを楽しんでいた者と他者に伝えることの難しさを実感した者とに分かれた。

1学期から授業中に説明活動させることを継続してきたので、説明したり話したりすることには慣れているが、自分ひとりしか分かっていない事を伝えることに不安を感じた生徒も多かった。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

当初、重要な式やその変形などを穴埋めさせるシートであったが、事前に実施したクラスでは相当時間がかかった。その反省を生かし今回はすべて書き込んだ資料にしたので、45分の短縮授業であったが、何とか終わることができたので良かった。しかし、目標としたことがどんな2次方程式についても言える関連性の獲得であったので式の係数を文字にした。そのため、資料を読み取ることには相当に困難を感じた生徒もいた。中には、前時に行った例（ウォームアップに使った問題）に戻って話し合っているグループもあった。このことから、資料の中に具体的な例を入れていくことが改善につながると思われる。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリット・・・知識間の関連性に意図的に目を向けさせて、理解を深めさせるときに効果があると感じた。普段は口頭で伝えるだけのことが多いので、関連性をつかむ事の重要性を生徒に認識させることができていなかった。生徒の感想にも「数学Ⅰと数学Ⅱの内容がこんなにも関連していることが分かった」とあり、その重要性を自覚させることができたのではないかと。

デメリット・・・授業で分かってほしいことが配布した資料そのものであり、3つの資料を合わせて分かったことを生徒に書かせても、3つの事柄がそのまま箇条書きにされているだけになってしまう。ジグソー活動のあとの発問をかなり工夫しないと解消できないと感じた。また、説明・話し合いが中心になるが、数学は自分で式変形や図など「書く」ことを通して理解が深まることも多い。その作業もあわせて行う協調学習にすると時間がかかりすぎてしまう。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

「3次以上の方程式の解と係数の関係」と「2項係数」についての関連性は、発展的内容であるが、協調学習で行ってみたい。

【数学】 $x = 1$ と $x = -1$ はどう違うー「極限」とは何かー 授業案

学校名： 埼玉県立吉川高等学校

教科名： 数学

対象学年 三学年 生徒人数 27人

教材作成者： 大久保貴章 先生

0. 授業のねらい

極限值は、とかく代入すれば求められると思われがちだが、そんなに簡単なものではなく非常にデリケートなものである。実際にそれを体験させ、不定形 $0/0$ の謎に触れさせる。

1. 答えを出してほしい課題

実際に近づけて得られる値と、代入して得られる値の違いの謎。

2. 部品（エキスパート資料の題材）

資料A：(2次式)/(2次式)の極限值を求める問題（極限值は2）

資料B：(2次式)/(2次式)の極限值を求める問題（極限值は5）

資料C：2次式の因数分解

3. 学習活動のデザイン 時間数 1 時間 20 分（50分授業×2）

時間	学習活動	支援等
9:05 (20分)	〈第1時限〉 ジグソー班をあらかじめ作り、極限に関するウォーミングアップを行う。（プリント全1）	○近づけていっても、代入しても極限值が求められる問題を行い、代入することが楽であることを感じさせる。
9:25 (30分)	基本的内容の理解後、これから行う作業の説明をし、エキスパート活動開始。	○ジグソー班の中で、生徒に自らA、B、Cを決めさせ、各パートに自覚を持たせ、エキスパート活動にのぞませる。
9:55	エキスパート終了	
10:05 (25分)	〈第2時限〉 元のジグソー班に戻り、（プリント全2）を行う。	○Aからは、 $0/0=2$ 、Bからは、 $0/0=5$ と結論してくる可能性がある。 $0/0$ についての謎に向き合わせ、新たな問題にアタックする中で、問題のキーマンCに意識を向けさせる。
10:30 (15分)	各班で考えたことについて、発表。教員が吸い上げ、クラスで情報を共有。	○極限值の求め方に限らず、「なぜ、近づけた時と代入した時で答えが違うのか？」についても、意見を聞く。
10:45 (15分)	最後に、 『 $0/0$ について』 『極限はデリケート』 について、教員が話し、締める。	○ $0/0$ では何もわからなく、代入というもの自体が極限ではとても雑な方法であることを説明する。

【数学】 $x = 1$ と $x \rightarrow 1$ はどう違う－「極限」とは何か－ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.10.18 / 数学・極限
授業者 大久保 貴章 教材作成者 大久保 貴章

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

電卓を使っただけの煩雑な計算なので、面倒くさがり、やらない生徒もある程度いるだろうと思っていましたが、思った以上に積極的に取り組み、いろいろな話し合いが展開されていたことが印象的でした。とりわけ、「なぜ近づけていったときの値と代入したときの $0/0$ が異なるのか？」の質問に、「 $x \rightarrow 1$ と $x=1$ は違う」（言った生徒がどこまで感じてこの発言を言ったかは疑問に思いますが）という発言がでたことに驚きと嬉しさを感じました。また、どういうわけか、分母、分子を微分し、代入したら、極限值が求められるといった生徒もいたので、生徒の発想の大きさにも驚きました。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- ・ 同じ教材で、3クラスの授業を行いました。最初のクラスで、エキスパート C のメンバーが、問題が簡単すぎて時間をもてあましてしまったので、二クラス目からは問題数をほぼ 2 倍にしました。ちょうどいい量に調節できたと思います。
- ・ 今回の授業の目的は、 $0/0$ とはなんだろうという疑問を持ってもらい、極限のデリケート性を感じてもらうこと（因数分解により極限值を計算することは、二の次）だったので、極限值が異なる同質の問題として、エキスパート A と B を用意しましたが、もっと極限值を求めることを意識したところに目的を置くとしたら、A、B の内容に変化をつけて構成したほうがよかったと今は思います。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

初めてやることなので、用意が大変ということは、すぐに感じるデメリットだと思います。また、今回の私の授業のように、この理解の内容を筆記試験で問うということは難しく、コラム的な授業になってしまうので、時間に余裕がないとできなかつたことだとも思います。しかし、要はやり方の問題で、どうにでもなるとも、何回か参加させていただいた研修会で感じました。具体的には、教科書の p.1 をエキスパート A、p.2 をエキスパート B、p.3 をエキスパート C、p.4 をジグソーとして扱える教材があれば、簡単に言うと、一回の授業ですべて教えなくても、4 ページ進めることができます。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

今回体験したジグソー式の授業は、考えれば、多くの場面で適用できると思います。ジグソー式授業は、生徒が自ら取り組むので、とても活気づきます。この方法を、常に頭に入れておき、これからの授業準備に役立てたいと思います。

【数学】理想の答案 授業案

学校名： _____ 浦和高校 _____ 教科名： _____ 数学 _____

対象学年 _____ 3年生 _____ 生徒人数 _____ 24名 _____ 教材作成者： _____ 野崎亮太 _____ 先生 _____

0. 授業のねらい

数学答案の「伝える」役割を自覚し、答案作成に生かす態度を養成する。
理想の答案を作成する過程で、問題の背後にある数学的構造に自覚的になる。

1. 答えを出してほしい課題

理想の答案に求められる条件とは何かを知る

2. 部品（エキスパート資料の題材）

- A：答案を採点・加筆修正する
- B：答案を要約する
- C：芸術点の採点基準を作る

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	導入	授業の円滑な進行のため、あらかじめ班わけを記した紙とワークシートを封筒に入れて一括配布。 作業進行上の小さな質問等に答え、進行を援助。 各班の進行状況に応じて、必要ならば模範答案の作成にうつるよう促す。
20分	エキスパート 課題A～Cにわかれての活動。 各班に生徒が作成した答案を配布する。	
25分	ジグソー 課題A～Cを持ち寄って、当該答案の改良点を重要な順にあげる。つづいて班ごとに模範答案を作る。 <授業後・次時の展開> クロストーク 各班の検討内容を踏まえて、理想の答案の条件について考えを深める。 模範答案ランキングなども（休み時間等）。 個別 授業の内容を踏まえて、各自が理想の答案を作成し提出する（宿題）。 授業で各自の答案を返却。感想も提出。	

【数学】理想の答案 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.17 / 数学 理想の答案の条件とは
授業者 野崎 亮太 教材作成者 野崎 亮太

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

- 予想よりも授業内容にきいており、集中というよりも熱中していた。24人の生徒全員がエキスパート、ジグソーとも能動的、積極的に活動に参加していた。
- 研究授業であることや、協調的学習であることなど、日常と違う授業であることをまったく意識せずに、自然に授業に参加しており、初めての体験ということを感じさせなかった。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- 生徒が配布された資料を手がかりにする(影響を受ける)度合いが高いことがわかったので、Bグループ〔要約〕では、充実した長い答案を1枚のみ与えるほうがよく、Cグループ〔美的基準〕では、答案はまったく与えないで考えさせるほうがよかったかもしれない。
- 生徒に自分たちの答案を見せたいという当初の考えに縛られすぎたので、生徒の活動を具体的に想定した場合には、Aグループ〔採点〕でも、配布する答案を絞ったほうが良かったと思う。授業で目指すことと、生徒の活動の具体性の調和に配慮する必要があると思った。
- ワークシートをすべて封筒に入れて配布してしまったのは、作業を簡略化できたとおもう。
- 生徒の作業時間をできるだけ正確に見積もって、消化不良にならないようにしたい。今回は時間が足りなかった。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

- 普段と違うことをするだけに、生徒が明確に「これが得られた」という感触をもてるようにしないと、時間の浪費であるという感覚を生みやすいと思った。
- 他者と価値観の交換・交流ができることは非常なメリット。とくに数学について、他者が数学をどうとらえているかを知る機会は既存の授業ではまずないので、協調的学習は有効。
- 活動の様子を観察することで、生徒が数学をどのように考えているかをつかむことができることはメリットである。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

- 生徒の感想に今回の「答案検討」もよいが、「解法検討」もよいのではという提案があった。本校の山野井教諭のストラテジーに関連して、非常に興味深いと思った。

【数学】逆向きにたどる一解法のコツをつかもうー 授業案

学校名： 埼玉県立浦和高等学校

教科名： 数学科

対象学年 高校2年生 生徒人数 18名

教材作成者： 山野井 俊介

0. 授業のねらい

これまで学習してきた内容から「逆向きにたどる」考え方が有効な3問を抜粋した。この考え方の良さをジグソーで帰納的に理解させることが本時のねらいである。

1. 答えを出してほしい課題

「逆向きにたどる」良さを発見する

2. 部品（エキスパート資料の題材）

資料A 少なくとも1つが1であることの証明

資料B 放物線と2本の接線で囲まれた面積

資料C 数の大小

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
ウォームアップ 5分	0番を受け取り、いままでの経験から良い考え方と思うものを全て挙げる	本時の趣旨説明 1つ1つの解き方ではなく汎用性の高い考え方を探ることが目標であることを強調 ここでも分野によらない汎用性の高い考え方に着目させる
エキスパート 20分	グループを編成する 担当の問題（〇ー1）を受け取り解く 解答配布	本時の流れを説明 グループ間で干渉しないように机は十分な距離が取れるよう配置する 同じグループのメンバー間での教えあいは良いと伝える 誤った解法でも手を出さない グループ内で解答を互いに確認させる この問題を解く上でポイントは何かを複数上げさせる（下線や書き込みをさせる） 先ほど考えた解くためのポイントは解答を受け取った後でも変わらないか確認 追加訂正削除などを促す

<p>ジグソー</p> <p>15分</p>	<p>再グループ編成</p> <p>相互に問題と解答を教えあう</p>	<p>目標を改めて強調</p> <p>説明を聞いている生徒は質問可と補足する (特に分からない振りをして質問をする事も良いものとする)</p>
<p>クロス トーク</p> <p>10分</p>	<p>3問に有効な考え方を討論させる</p> <p>各班ごとに代表を選んで黒板にそれぞれが発見した良い考え方を黒板に書く</p> <p>まとめ</p>	<p>再度趣旨を確認</p> <p>あいまいな記述は具体的に説明させる</p>

【数学】逆向きにたどる一解法のコツをつかもうー 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.17 / 数学 ストラテジー
授業者 山野井俊介 教材作成者 山野井俊介

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

エキスパートであやふやな状態だとジグソーで迷惑をかけると冒頭で説明したこともあって普通の授業より切羽詰った雰囲気であった。普通の授業でもCグループにいた生徒は、わからないことがあると隣の生徒や私に聞く意欲的でありがたい存在であるが、彼の「なんで攻撃」を普段より多くの生徒が受けることとなり他者に説明する苦労を実感したのではと思う。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

エキスパートはグループごとに難易度を揃えるのに苦勞し、結局難易度は揃わないまま授業となってしまう。しかし逆向きにたどる良さがでる問題であるならば難易度が多少違ってても仕方ないとの思いで授業に入ったがそれで結果的には良かったと思う。というのもグループCは解答を配布した後でもなぜあの関数を考えるのが分からず非常に困った様子であったがジグソーに入りAグループとBグループの解法を聞いたところでその理由が分かった者もいたようでそれはそれで良かったのかなと思った。事前のCoREFとのやりとりで足場を作ったほうがとのアドバイスを頂いたがやはりエキスパート課題が日ごろ彼らが目にする問題に近い状態になっている方が、良いと思った。

一方で、解答に議論の焦点を書いたほうが良いとのご指摘は非常にありがたかったと感謝している。別クラスでの授業が上手く行かなかったのは、あの記述が無かった所によるものが大きいと思う。

改善点としてはもっと教材作成の手間を省いていけないかと思っている。今回で言えばエキスパート課題は生徒が持っている教材から選んできているので事前に教材を持ってくるように言えばエキスパートの1枚目は全て作らなくて済むし解答も同様だと思う。少なくとも解答を見る段階で議論が散らないように議論の焦点を指示するする紙ぐらいいはあった方が良いが究極はそれも口頭で良いと思う。協調学習が研究授業だけで終わらず月1回くらいの継続可能な授業にしていくためには、このような工夫をもっとする必要があると思う。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリット：受験を乗り切る集団力(教えあう、疑問を他者に伝える、共に頑張ろうという機運)を伸ばすには良いと思った。このような授業を入学直後にやっておくと良い3年間を送れるのではないかと期待している。

デメリット：準備に時間がかかりすぎる

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。ストラテジーは他にもあるので是非他のでもやってみたい。

【英語】「who/whom/which/whose/that」ってどんな言葉？ 授業案

学校名： 埼玉県立越ヶ谷高等学校

教科名： 英語

対象学年： 1学年 生徒数： 41名

教材作成者： 平山 努

0. 授業のねらい

“who/whom/which/whose/that” の使い方を学ぶことを通して、文法体系は言語が使用されるようになった後にその言語の構造を説明するために便宜上作られたものであり、文法を法則として理解し、知識として得る前に、各法則でなぜそうなるのかなぜそのように使うのかを理解し、言語の使い方の本質をとらえながら文法を学習していく態度を身につける。

1. 答えを出してほしい課題

“who/whom/which/whose/that” は本来どのような使い方をされるのか
(本来疑問詞と関係代名詞の使い方の区別はなく、同じであることを知る)

2. 部品(エキスパート資料の題材)

資料A： “who/whom” の使い方を探る

資料B： “which” の使い方を探る

資料C： “whose” の使い方を探る

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
13:05	ウォームアップ テレビコマーシャルの視聴 (一部のみ) 本時の課題を確認する “who/whom/which/whose/that”は本来どのようなときに使用するのか	○ テレビコマーシャルを視聴して、本日のテーマについて興味付けを行う。(ビデオ使用) ○ 英文法を学ぶ際、単なる法則の暗記ではなく、ことばの本質をとらえることが重要であることを理解させる。(スライド使用)
13:10	エキスパート活動 各班に配布された和文英訳問題を協力して解き、説明できるようにしておく 各グループに割り当てられたキーワードの使い方について考察する	○ 班の再編成後(ジグソー班)は、その資料を知っているのは自分のみであり、明確な説明が要求されることを理解させる。
13:25	ジグソー活動 ジグソー班に再編成し、エキスパート活動の問題と解答を共有し、なぜそうなるのかの説明を考える 各グループから出てきたキーワードの使用法について、共通点や相違点を考察する テレビコマーシャルを視聴しヒントとする 考察した法則に基づいて使い方を確認する 練習問題を制限時間内に解く ○ できる限り解答の確認を行う テレビコマーシャル全体を視聴	○ 各班で出た解答に誤りがある場合は互いに指摘し合い、全員が一致した解答になるよう支援する。 ○ 課題で行き詰まりの状態になっている班に対してはヒントを与える。 ○ ポイントのみを提示し、細かい説明は避ける。 ○ できる限り感覚的に解くように導く。 ○ 「おち」を楽しませる。

13:45	<p>クロストーク活動 各班で予想した設問の解答を全員の前で説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自が各英文の話者になったつもりで状況を考え、課題の解答を引き出すよう導く。 ○ 発表はポイントを明確に表現したものになるよう指示をする。
13:55	<p>まとめ 疑問詞と関係代名詞の共通点を確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポイントのみを提示し、細かい説明は避ける。
14:00	<p>実践練習 練習問題により使用法に慣れる 時間内に練習問題を解き、その後解答をチェックする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 語感の大切さを理解させる。 ○ ことばを感覚的に捉え、瞬発性を持って使えるよう導く。
14:08	<p>まとめと自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も英文法を学ぶ際、ことばの本質を考え、常になぜそうなるかを念頭に学習しているよう導く。

【英語】「who/whom/which/whose/that」ってどんな言葉？ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.10.29 / 英語 関係代名詞

授業者 平山 努 教材作成者 平山 努

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

各グループ内で、話し合いを通して解答を引き出そうとする意欲が普段よりも増して感じられました。ジグソー型の授業に限らず、同じ形式の授業をあまり頻繁に行っていると、生徒たちに「慣れ」とともに「飽き」が生じ、惰性で進む危険性がありますが、今回生徒たちにとってもジグソー型の授業が初めてということもあり、新鮮な気持ちで授業に参加し、活動意欲が増したものを考えています。

また校外から多くの参観者が自分達を見ているということで、プライド意識から一生懸命授業に参加しているところを見てもらいたいという要因もあったようです。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

次の授業時に生徒たちと「振り返り」を行った結果、教材作成者の意図はおおかた生徒たちに伝わったように思います。ただし、限られた時間内にあまりにも多くの活動を詰め込み過ぎたことを反省しております。その1つの大きな原因として、生徒たちの予備能力のレベルを読み誤ったことがあげられます。

事前に関係代名詞についてどの程度詳しく中学校で学習したかを調査はしてはしましたが、「すでに学習した」ということと「現在も理解しており使える」ということは全く別のことであることを見落としていました。従って最初のエキスパート活動で予想以上に時間がかかってしまい、その後の活動も後に押ししてしまい、結果的に予定通り終了できなくなってしまいました。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

1. メリット

①生徒たち自身が考察を重ねて解答を引き出すことで生徒たちの理解が深まり、知識の定着度が高くなる。②自己表現能力とともに他の者の意見に耳を傾けながら解決策を見つけ出そうとする協調性や客観的問題解決能力を養うことができ、それを他の分野や日常生活に活かすことができる。

2. デメリット

①生徒たちが考察するためある程度まとまった時間を割くことになる。大学入試レベルに対応した3年間や各年間の授業進展を考えると、他の部分を縮小または削除する可能性が出てくる。②ジグソー法での「考察→理解」に加え、英語では「運用」能力向上のための「理解→実践練習」に多くの時間を必要とするため、やはり時間に関する制限が大きくなる。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

ジグソー法は、ある程度英語の基礎的運用能力（特にスピーキングやリスニング）が確立された学習者が、さらにその力を向上させるために使用するとより効果が高まると考えます。各活動で英語で考察や対話を行うことにより、さらに運用能力の向上が期待できるためです。リーディングやリスニングから得た情報について考察を加えたり、英作文等で様々な表現法を考察するなど、その過程で英語のロジックも学ぶことができます。（スピーキングやリスニング等の基礎的運用能力が乏しい場合は、考察、思考力レベルと英語運用能力レベルのギャップが大き過ぎるため、表面的な活動で終わってしまう。また、得た情報をもとに日本語で各活動を行い、新しい知識を得るのであれば、あえて英語の授業でそれを行う必然性はなくなります。）従って、今後、上級学年の授業を受け持った時に、内容の深い教材を使用してジグソー法に取り組みたいと思います。

【英語】人間が1日3食食べるのはなぜ？－英文を読んで考えよう－ 授業案

学校名：埼玉県立春日部女子高等学校

教科名：英語

対象学年：1 学年外国語科 生徒数：21名

教材作成者：安田やよい

0. 授業のねらい

人間は三食規則正しく食べることで健康を維持できるが、なぜそうなるのかを理解する。また、健康に関する語彙や表現を学ぶ。

1. 答えを出してほしい課題

人間はなぜ一日三食食べるのか。

2. 部品（エキスパート資料の題材）

資料A：グリコーゲンの役割

資料B：人間の体内時計

資料C：肥満

3. 学習のデザイン

時間	学習活動	支援等
13:25	ウォームアップ スキットを見て、本時の課題「人間はなぜ一日三食食べるのか」を確認する。 課題に関する事前の意識調査を行う。	○食生活に関するスキットを行い、生徒の興味を引く。課題を確認し、本時の活動の目的意識をもたせる。 ○英語での記入が速やかに行くように、補助する。
13:35	エキスパート活動 各班に配布された英語の資料を読み設問に答える。3人で協力して行い、次の活動で何を伝えるかを確認する。	○協力しながら他のグループに説明する準備を行えているかを観察し、必要に応じて支援する。 ○話し合いは日本語で行い、設問の解答記入は英語で行う。
13:45	ジグソー活動 ジグソー班に再編成し、エキスパート活動の内容をお互いに説明しあい本時の課題の解答をさがす。	○説明することによって自分の理解を確認できているか、みんなの説明を結びつけて課題の解答を見つけているかなどを観察し、必要に応じて支援する。 ○日本語での活動であるが、英語での発表に備えて準備する。
14:00	クロストーク 班ごとに課題の解答を全員の前で発表する。	○英語での発表なので、全員に伝わるようにゆっくり明確に話すように指示する。 ○気付いたことをメモにとるように伝える。
14:10	振り返り 課題に関する事後の意識調査を行う。	○英語での記入が速やかに行くように、補助する。

【英語】人間が1日3食食べるのはなぜ？－英文を読んで考えよう－ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.15 / 英語 Health なぜ人間は一日3食食べるか
授業者 安田 やよい 教材作成者 安田 やよい

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

活動自体を難しく感じる生徒は多かったようですが、全体的に熱心に取り組んでいたようでした。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

1) 一つの課題について、3つの角度から考え、組み合わせるという問題提起はうまくいったと思います。(CoREFのみなさまのアドバイスをいただけて)日本語と英語を使いわけることにより、(小河先生にもご指導いただきましたが)英語の4技法+推測する力を高めることができることを発見しました！

2) ただ、時間が足りなく、Expert、Jigsawで理解をしっかりと深めることが十分ではなかったです。改善したい点は、資料を要点をおさえてもっと短くしたり、2時間かけて協調学習をするなどして生徒達にじっくり考え、発見できる機会を与えていきたいです。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリット→学び合うことにより、生徒の理解力を深めることができる。学びの発見があるのでそれが喜びとなり、モチベーションにもなる。

デメリット→資料さがしが大変です。(しかし1度作ってしまえば改善を加えながら使えます。Ex 学期に2回、3年間やってみるとすると、少なくとも18パターンは必要ですが…)

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

- 1) 時事問題 (社会の出来事に関心をもってもらいたい)
- 2) 教科書の単元の総まとめとして (教育、環境、歴史 etc)
- 3) 裁判員制度や教育問題など。ディベートのようになってしまっていますが、ディベート的な要素を協調学習に使えないかと考えていきたいです。

【英語】カレンダーはなぜ必要か？－英文を読んで考えよう－ 授業案

学校名：埼玉県立浦和高等学校

教科名：英語

対象学年：2年生

教材作成者：小河園子

0 ねらい

現代社会で生きていくためには「標準としての時間の区切り」が大切であることを理解する。

1 答えを出してほしい課題

「カレンダーはなぜ必要か？」

2 部品（エキスパート資料の題材）

①無人島（英文資料1）：*Robinson Crusoe*, Daniel Defoe (Oxford Bookworm Series)より

②逆周りの時計（英文資料2）：*Read On* (文部科学省検定教科書、東京書籍)より

③宇宙の時間（英文資料3）授業者による書き下ろし

3 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5	ウォームアップ ○課題に対する事前の意識調査（ワークシート1）を行う	・ワークシート1はあらかじめ配っておく。 ・英語の使用を促す。
3	課題の確認 「日常生活におけるカレンダーの働きは？」	・課題の確認後、エキスパート活動の資料（ワークシート2）を班長にとりにこさせる。
15	エキスパート活動 ○各班に配られた英語の資料（ワークシート2）を読み付随の問いに答える。3人（4人）で協力しながら行う。	・次の班編成のカードを配る。各班から一人ずつ別の班で報告をすることを伝える。 ・英語の使用を促す。
10	ジグソー活動 ○ジグソー班に再編成し、エキスパート活動の資料をそれぞれが英語で説明し、本時の課題に対する回答となぜそうなるかの説明を考える。 ○ワークシート3を使いながら考える。	・話し合いのようすを観察しながらワークシート3を配る。その際、発話量の少なそうな班から先に配る。配りながらワークシートの使い方を必要に応じて説明し、話し合いを促進する。 ・英語の使用を促す。
10	クロストーク ○各班で考えたカレンダー（時間の区切りを意識すること）の必要性を英語で発表する。 ○ワークシート4にメモをとりながら聞く。	・「時間の区切り」は「自己管理」と「他者との関わり」のためにあること。そのためには「標準化」もやむをえない部分があることに気づけるように、発表を受けての板書を工夫する。
2	まとめ	・key wordを中心に活動を振り返る。

【英語】カレンダーはなぜ必要か？－英文を読んで考えよう－ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.17/ 英語 L3:Papalagi: Never Have Enough Time「現代人と時間」
授業者 小河 園子 教材作成者 小河 園子 assisted by CoREF

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

- ・ 楽しそうに活動していた。2～3うまくいっていなさそうな班も、初めのうちあったが、最終的にはうまくなじんだと思う。
- ・ 記憶や理解を問う授業ではあきてしまう生徒が、思考と表現の場面で非常に生き生きしていたのが印象的であった。
- ・ 「やらされた感」が残る生徒が少しいそうで、アンケートが少し心配。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

CoREF のアドバイスもあり、C のシートを変えてよかった。

A ももっと工夫できたはず、と反省はあるが、逆に A を手がかりに考えた形跡も、特に別のクラス（2-1→教科書とのつながりを明示化した場合）で見られた。その辺の、意図と具体の結合が、自分はまだまだ甘いと思った。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリット：

- ①生徒の内在力を引き出し飛躍の機会を与えられる。
- ②学級集団が活性化する。

デメリット：

（では本質的にはないのだが）普通の授業との接合に違和感のないような工夫が必要であり、ひいては普通の授業も変わっていく時、周りの先生との連携など、無限に続きかねない、と取り越し苦労ながら少々気が重い。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

Lesson5→ロビンソンクルーソーの地図の読み取り

Lesson 9→環境問題→共生の概念のようなもの

◎Lesson 1 1→ナノ・テクノロジー

【英語】健康を保つためには？－英文を読んで考えよう－ 授業案

学校名：埼玉県立浦和高等学校

教科名：英語

対象学年：1年生

教材作成者：池野智史

0 ねらい

健康を保つためには免疫の作用が大切であり、そのために運動や食事が大切であることがわかる。あわせて英語の関連語彙や表現に習熟する。

1 答えを出してほしい課題

「健康を保つためには何が効果的か？」

2 部品（エキスパート資料の題材）

- ①伝統的な栄養食（英文資料1）
- ②私の家族の健康法（英文資料2）
- ③睡眠と健康（英文資料3）

3 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5	ウォームアップ ○課題に対する事前の意識調査（ワークシート1）を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート活動の班（3人～4人）で座れるよう指示する。 ・ワークシート1はあらかじめ配っておく。 ・英語の使用を促す。
5	課題の確認 「健康を保つためには何が大切か？」	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の確認後、エキスパート活動の資料（ワークシート2）を配布する。
15	エキスパート活動 ○各班に配られた英語の資料（ワークシート2）を読み付随の問いに答える。3人（4人）で協力しながら行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・次の班編成の指示をする。各班から一人ずつ別の班で報告をすることを伝える。 ・英語の使用を促す
10	ジグソー活動 ○ジグソー班に再編成し、エキスパート活動の資料をそれぞれが英語で説明し、本時の課題に対する回答となぜそうなるかの説明を日本語で考える。 ○ワークシート3を使いながら、健康法とその理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの様子を観察しながらワークシート3を配る。配りながらワークシートの使い方を必要に応じて説明し、話し合いを促進する。 ・英語の使用を促す
10	クロストーク ○各班で考えた健康法とその理由を英語で発表する。 ○ワークシート4にメモをとりながら聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜補足をする。
5	クールダウン（ワークシート4下部）	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での記入を促す

【英語】健康を保つためには？－英文を読んで考えよう－ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.11.17 / 英語 I
授業者 池野智史 教材作成者 小河園子教諭・池野智史

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

反応は非常に良かったと考えています。ALTとの授業ということで対話に制限を感じてしまう部分もあったかとは思いますが、ジグソー班での話し合い、最後に意見をまとめる英作文・発表に至るまで活発に活動していたと感じました。

反面、エキスパート活動の英文に難易度の差が少々あり、スムーズに読み進めるのが難しい英文を担当することになってしまった生徒が散見されました。時間を有益に使うためにはサポートの仕方、適切な働きかけを考えなければならなかったと反省しています。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

良い点としては、③のシートで各班の英文の主題を明らかにする欄を設けたことが挙げられます。②→③の接続に関しては、割合うまくいったかと思えます。加えて、④の末尾に①の質問を再度投げかけ、+αの課題も与えられたことで枚数は減らしつつ、濃度を上げられたかと感じました。

対して、最後の質問における指示文で、グループの意見→自分の意見というシフトを意識しすぎたあまり「**your own** opinion」という強調を加えたのは蛇足でした。特に先入観を持たせることなく、「**your opinion now (not your group's opinion)**」などという程度に止めるほうが望ましかったのでしょうか。授業内容から乖離した答えを書きってしまう生徒が多くなってしまいました。

さしあたってはこの程度です。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリットとしては、講義形式の授業を退屈に感じてしまう生徒や自己表現を活発に行いたい生徒が活力を見せてくれる点を実感できました。また、めまぐるしく活動が切り替わるため、50分の授業の中では飽きてしまう心配はあまりないと思います。

反面、必然的に多くの活動が50分に詰め込まれてしまうため、文の長さや難易度を調整しないと消化不良が起きてしまうことも感じられました。生徒アンケートからは「英文の意味が分からない」という返答も出てしまいましたので。全員の理解を視野に入れると、難易度設定が問題でしょうか。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい单元などあればお書き下さい。

具体的には今すぐには浮かびませんが、今回のフォーマットを利用すれば様々なトピックに簡単に応用できると感じました。

【理科】遺伝子の組み換えと染色体地図 授業案

学校名：埼玉県立越ヶ谷高等学校
対象学年：2 学年 生徒人数：33 人

教科名：生物 I
教材作成者：下山 尚久

0. 授業のねらい

- ①染色体地図とは何か説明できる
- ②染色体地図をどのように作成するかを理解し、実際にデータをもとに作成できる
- ③生まれてくる確率の低い表現型がある理由を説明できる

1. 答えを出して欲しい課題

染色体地図を作成し、発展的な問いに答える（問題集の問題を利用）

2. 部品

資料 A：染色体地図とは

資料 B：遺伝子の組換えはどのように起こるか

資料 C：連鎖と独立をどう見分けるか

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5 分	本時の目標の確認 ①染色体地図とは何か説明できる ②染色体地図の作り方を説明でき、染色体地図が描ける ③生まれてくる確率の低い表現型がある理由を説明できる	○本時の目標を達成するための活動をこれから行うことを意識づける
5 分	ジグソー法の確認	○グループの作り方、時間配分を伝える
15 分	エキスパート活動 資料を読み、説明を考える または、資料からデータを加工する	○席の移動を指示する ○資料を配付する ○残り時間を意識させる ○停滞しているグループに声をかけ、ヒントを出すなど支援する
15 分	ジグソー活動 実際に問題に挑戦し、染色体地図を作成する	○席の移動を指示する ○資料を組み合わせ課題に取り組むよう支援する ○15 分後に答えを発表してもらうことを伝える
10 分	クロストーク 各グループが出した答えを発表する	○お互いの説明を聞く
15 分	振り返り 各自、自分なりの説明を書く 授業の振り返りを記入する	○目標を達成できたか確認させる ○自分たちの取り組みについて自己評価させる

【理科】 遺伝子の組み換えと染色体地図 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010/10/29 / 生物 I 遺伝・染色体地図
授業者 下山 尚久 教材作成者 下山 尚久

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

生徒は普段以上に活発に活動していた。責任感が生まれるのか、普段比較的やる気のない生徒もしっかり取り組んでいた。

ジグソーそのものも2回目なので、慣れた感じであった。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

3分割はうまく機能したように思う。ただ、発展的な課題については難しすぎた。とはいってもミニマムの到達目標が染色体地図を書けることだったので、その点はクリアできていたため、問題ないと思った。

急いで作った教材なので、いくつかプリントにミスがあり、生徒に指摘してもらった。

見直しは大事だと改めて思った。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

少なくともジグソー法に関しては次の点を感じる

メリット

- ・ 授業の枠が構成されているので、ある程度の強制力を持って生徒が活動できる
- ・ 情報の提供を制限することで、コミュニケーションすることに必然性が生まれる

デメリット

- ・ 情報の分割の仕方、そして情報を集約させて考える課題を考え出すのが大変
- ・ 毎日やるのは、ちょっと無理かもしれない

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

一つの型として身につけて損はないと思いました。

色々ご指導いただきありがとうございますございました。

【社会】中世末期ヨーロッパで権力を握ったのは？ 授業案

学校名： 埼玉県立越ヶ谷高等学校

教科名： 世界史 A

対象学年 2 学年 生徒人数 30 教材作成者： 福島 巖 先生

0. 授業のねらい

中世末期のヨーロッパ世界での権力構造の変化を読み取る

1. 答えを出してほしい課題

中世末期のヨーロッパで権力関係はどのように変化したか。

2. 部品（エキスパート資料の題材）

資料 A：教皇権の失墜

資料 B：百年戦争による諸侯・騎士の没落

資料 C：ペストの流行による諸侯・騎士の没落

3. 学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
14:20	ジグソー法の説明と予想立て 中世末期の権力関係の変化	○ 本時の課題に対する予想を書かせる。
14:30	エキスパート活動 各班に配られた資料について、各自が読み込み、班で話し合いながら理解して説明する準備をする ・資料にアンダーライン等を引く ・資料にタイトルをつける ・資料を理解し説明できるように班で協力する	○ 資料を理解する時間を十分とるよう配慮する。
14:50	ジグソー活動 ジグソー班に再編成し、エキスパート活動の資料をそれぞれが説明し、本時の課題に対する解答と、なぜそうなるかの説明を考える ・3つの資料を、どの順番で組み合わせたら答えが導き出せるか ・クロストーク用に解答をまとめる	○ 班の再編成後（ジグソー班）は、その資料を知っているのは自分一人であることを理解させる。 ○ 3つの資料を組み合わせ、質問（本時の課題）の答えを出すように支援する。
15:10	クロストーク活動 各班で話し合ったことを1分間で説明する	
15:20	まとめ 本字の学習から、権力関係の変化をワークシートにまとめる	○ 一人一人が、自分で納得した答えが出せるように支援する。 【評価 思考・判断】 中世末期の権力関係の変化が読み取れたか。

【社会】中世末期ヨーロッパで権力を握ったのは？ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.10.29 / 世界史 A 中世末期のヨーロッパ
授業者 福島 巖 教材作成者 福島・長南・下川

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

10/29は見学者もいた影響で、いつも以上に集中していた。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

活動ができて、結論まで各班がたどりつけたところが良かった。

「農民」が出てきた時はちょっとびっくりしましたが、生の授業の感じで良かった。

クロストークがばらけるようなものをつくってみたい。65分1回ではできなさそうですが、あと他校で50分でおさまるのが心配ですね。私は65分でギリギリでした。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリットは「発言する機会」が増えること。たぶん思考をたくさんしていること。記憶に残りやすいかもと思う。

デメリットは、答えが1方向であるとするならば、何回もやっているうちに、クロストークだけ聞いていれば良いということになりかねない。思考することに意味を持たせない。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

ジグソー型のもう少しレクチャーを受けないと、あいまいな部分が解決できない。

【美術】「鑑賞の心得」をつくろう 授業案

学校名： 埼玉県立大宮光陵高等学校 教科名： 美術（西洋美術史）

対象学年 2学年 生徒人数 40 教材作成者： 高濱 均 先生

0. 授業のねらい

鑑賞はイメージを読み解き、新しいイメージを創出する楽しい学びである。わからない作品も敬遠するのではなく、感受する糸口を探り、主体的に美術鑑賞しようとする態度を育む。

1. 答えを出してほしい課題

鑑賞の仕方を考える（理想的な鑑賞の姿勢や人に勧めたい鑑賞の仕方を考えよう）

2. 部品（エキスパート資料の題材）

資料1：“わかる”ということ

資料2：“リアリティー”について

資料3：これって未完成？

3. 学習活動のデザイン 時間数 4 時間 (50分×2)×2日

時間	学習活動	支援等
20分	○本時の学習内容を知る 机移動、班編成	○学習形態（協調学習）についての事前説明 ・教室のレイアウトを指示、グループ・班分け
15分	○ウォームアップ	○ワークシートで各自の鑑賞の態度を確認。
15分	各班から意見発表	・各班から一人ずつ考えを発表させる。
45分	○エキスパート活動 班ごとに配られた封筒に入った資料を、指示に従って順番に読み込み、班で話し合いながら理解する 説明できるように意見交換やメモし、理解が深まるよう協力する	○読み込んで資料を理解する時間を十分とる。 ・期間巡視し、よく理解できていない様子の生徒には説明や考えの進む助言をする。 ・グループによって資料の枚数が異なるため、様子を見ながら次の封筒を開けるタイミングをグループごとに指示し、学習の進み具合を調整する。
5分	○資料を戻し、次の展開を知る	○事後指導、次回の学習の予告 資料回収
5分	○本時の学習内容を知る	○資料を返却。前回の授業を振り返えさせる。
40分	○ジグソー活動 班を再編成し、班の名前を決める エキスパート活動の資料をそれぞれ説明する エキスパート活動で学んだ内容を整理し、本日の課題である班ごとの「鑑賞の心得」を作成 ・付箋で各自の意見を出し合い、整理して意見をまとめる	○班の再編成を指示。 ・ジグソー活動で学んだことを、資料提示しながら自分の言葉でわかりやすく説明するよう指示。他の班員は随時質問させ、理解が深まるよう支援。 ・説明に納得し、班全体で共通の理解ができていないか確認させながら進ませる。 ・各自の考えや思いついたことを付箋に記し、言葉を視覚化させる。同様な意見を整理させ、より効果的な言葉にまとめるよう支援。
20分	・ポスターづくりの工夫	・効果的な意見発表ができるようポスター作成を工夫させる。
30分	○クロストーク活動 順にポスターを使い、班ごとに発表、他の者も発表を聞いて意見をいう	○各班が工夫した意見発表ができるよう支援。 ・聞く側からの意見も発表させる。
5分	○まとめ	○鑑賞の態度の変容をワークシートで確認。

【美術】「鑑賞の心得」をつくろう 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 H22.11/4(木),11/11 (木) / 美術・西洋美術史
授業者 高濱 均 教材作成者 高濱 均

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

西洋美術史の授業では普段一方的な講義であり、生徒の主体的な活動の機会を用意してこなかったが、今回の協調学習の体験は新鮮な感覚で受け止めてくれたようで、積極的な授業参加の姿勢がうかがえた。中には、エキスパート活動において、考えること記述することを時間に追われるように強要される感覚に、「辛い」と漏らした生徒もいたが、体験のなさによる違和感とも考えられ、教室内の雰囲気盛り上がっていたため、それなりに楽しんでくれていたと思われる。

ジグソー活動では「説明」という主体となる立場が用意されているため、発言の苦手な生徒にも修練としての良い機会になっている。ただ、そのような生徒の場合、著しい苦痛にならないよう教師の援助も必要となる。概ね、戸惑いながらも楽しんで参加する様子が見られたことは嬉しく思えた。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

エキスパート活動のテーマ設定が鑑賞という行為に直接結びつくものではなく、それぞれ関わりの薄い独立した内容としたため、ジグソー活動からまとめていく際に戸惑いと苦勞を生徒に感じさせたかも知れない。具体的な関連が見えない内容から、生徒がどうまとめ、着地点を見出すかを期待したためであったが、難しいという印象を与えたことも否めない。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリットとしては生徒の主体性や協調性を養い、相手への伝達や説明、発表等の体験を多くもたらしことや思考の訓練が大きな学習成果となる。授業者側としても面白い。

デメリットとしては、ある程度の授業時間を取られるということ。当然、事前準備にも時間は掛かるが、単位数の少ない教科での恒常的な実施は、学ばせたい知識量の確保が難しい。また、協調学習における“評価”の側面も検討と工夫が必要となるであろう。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

具体的ではないが、教科性を活かした言語活動としての修練になるような内容を考えていきたいさらには、表現活動（制作）に結びつく内容や方法も考えられるとよい。

【美術】私たちは日本の美術を知っているか 授業案

美術科（美術史）協調学習 学習指導案

大宮光陵高等学校 第1学年8組（美術科）（40名）
平成22年11月30日（火）第4、5、6校時
使用教室 大会議室 教諭 岩崎 浩之

1 題材名 「私たちは日本の美術を知っているか」（日本の美術と文化）

2 題材設定の理由

「美術史」では、「日本の美術と文化」の内容を学習するために日本美術の作品の変遷や歴史的背景などによる表現形式の違い、民俗、風土、宗教などの違いによる作品の傾向、作者の意図などを作品鑑賞や調査研究をする過程で理解すること望まれている。その鑑賞においては、作品を多角的に観察する必要があり、その過程で作品の意味や歴史的変遷を主体的にまた具体的に考える必要があるはずである。

本題材は、「日本の美術と文化」の内容を「協調学習」の学習過程（エキスパート活動、ジグソー活動、クロストーク）を使い学習する。

具体的には、日本の美術の特徴を西洋の美術における自然主義、写実主義と比較して、日本の風土の中で培われた特有の美的感覚、日本特有の美術を考察する。本題材は、全授業時間が3時間という短いものなので、日本の美術を絵画、彫刻、工芸の3つの分野に大きく分け、3方向から考察する。その後それらを総合し、日本の美術の特徴として結論づける。また、今後の学習の発展として、それらの日本の美術が、特有のものとして現代の我が国の美術にどのように受け継がれているのかを知る足掛かりとしたい。

3 題材の目標

日本の美術を西洋の美術と比較し、絵画、彫刻、工芸の分野から特徴を発見し、日本の風土の中で培われた特有の美的感覚、芸術性を考察する。

4 授業の準備

○教師が用意するもの

- ・ワークシート ウォームアップ : 1
- エクスパート活動 : 2—1、2—2、2—3
- ジグソー活動 : 3
- クロストーク : 4
- ・ケント紙（B2サイズ）、マジック、付箋、のり、はさみ

○生徒が用意するもの

- ・筆記用具

5 指導計画 3時間

時間	指導内容 (生徒の学習内容)	指導の実際 (教師の指導・支援)	その他、留意点等
4 限	5 ○事前の説明 ・エキスパート活動の班で集まる。 ・協調学習について理解する。	・協調学習について、学習のねらい、意味、方法等を説明する。	
	10 ○ウォームアップ ・ワークシート1を使い、日本の美術にどのようなものがあるかを、現在の自己の知識や考えを見つめ、改めて認識する。	・ワークシートに記入するように指示する。	
	35 ○エキスパート活動 ・ワークシート2—1、2—2、2—3を読み、問いに答える。 ・それぞれのワークシートでテーマにされている日本の美術の特徴について話し合い、考察する。	・それぞれのワークシートの問いに答えるように指示する。 ・それぞれのワークシートのテーマについて班ごとに話し合うように指示する。	・生徒各々が自分の言葉で考え、説明するように配慮する。
45	(昼休み)		
5 限	10 ・ジグソー活動でどのように説明するかを考え、話し合う。		
	30 ○ジグソー活動 ・ジグソー活動の班で集まり、ワークシート3を使い、エキスパート活動で考えたこと、話し合ったこと、得た知識等について、班のメンバーに説明する。	・生徒各々で考えたこと等を班のメンバーに説明するように指示する。	・生徒各々が自分の言葉で説明するように配慮する。
	10 ○クロストーク ・ワークシート4を使い、班のメンバーの説明を総合し、日本の美術の特徴について話し合い、考察する。	・班ごとに日本の美術の特徴について話し合い、考察するように指示する。	・生徒各々が自分の言葉で説明するように配慮する。
10	(休み時間)		
6 限	40 ○クロストーク (前時の続き) ・各班で出した日本の美術の特徴についてポスターにまとめる。 ・各班で代表者を決め、ポスターを使い、それぞれの班で考えたことを発表する。 ・各班の発表を、記録をとりながら聞く。	・わかりやすくポスターにまとめるように指示する。 ・各班の発表を、記録をとりながら聞くように指示する。	・それぞれの班の発表について、よさや面白さを吟味し、感じ取ることができるように配慮する。
	10 ○まとめ	・全体の講評をする	

【美術】私たちは日本の美術を知っているか 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 平成 22 年 11 月 30 日 (火) / 美術科・美術史 (日本の美術と文化)

授業者 岩崎 浩之 教材作成者 岩崎 浩之

① 授業中の生徒たちの反応はどうでしたか？

生徒が積極的に話し合いをしていたので、その意味で概ね良好だったと思います。また、アンケート結果をみても、学習以前に比べ日本の美術についての何らかの知識を得たり、納得をしたりして、理解を深めたことがわかります。何よりも授業担任として、生徒が日本の美術に前向きに関心を持ち、意欲を感じることができたので、非常に嬉しく思います。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

詳細については、まだ自身の中で総括できていませんが、生徒たちが積極的に授業に参加し、理解を深めたことは、結果として前向きに捉えています。その観点から教材においては、それほど悪い点はなかったように考えています。しかし、研究協議で指摘されたように、いくつかの質問において、生徒が理解するのに難しい内容、言葉の表現等を改善する必要があると思います。一つの質問を2つから3つに分け、段階的に考えることができるような質問にするべきだったのかもしれませんが。

③ 今後ご自分で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリットとしては、生徒たちが話し、聞き、考える活動を繰り返すことによって、他人任せにせず自ら思考し、自己の考えが明確になり、理解が深まることだと思います。普段私たちが行う一人の教師が複数の生徒に教科書等を使用しながら講話的に話しをする教授法に比べ、生徒の理解の定着が大きいと思います。

デメリットとしては、その活動時間が長くかかることだと思います。その意味では、一般的にいわれる「効率が悪い」ということになるのかもしれませんが。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

主要5教科の実践では、美術の内容に比較し、求める答えや目的（ゴール）などがより明確なのだと思います。美術の学習内容では、どうしても正解として一つの答えを確立することは難しいと思います。たとえば、美術作品の「鑑賞」の学習においては、生徒各々がそれぞれなりの捉え方をすることが良い、というのが基本的な考え方としてあります。その観点から、より明確な答えや一つの目的（ゴール）を目指す協調学習に関心があります。しかし、芸術の内容において、それを形づくることは難しいかもしれません。もし、それを行うと、芸術教育の可能性や良さを失うことになり、本来の芸術教育の理念を失い、本末転倒になるような気がします。